

グループワーク①

変化・現状

働き方	ワーケーション・テレワーク web会議 販路拡大・開拓の難航 様々なことがオンライン化 新たな事業取り組み増加
-----	---

地域経済	コロナの影響は大小二極化 一部のお店では売上UP,店舗拡大 継続して人手不足 飲食店は依然厳しい状況
------	---

生活	1年経過したことによる慣れ 自由な時間が増えた 働き方改革が進んだ 予防習慣⇒インフルエンザにも効果 移住（都市部一極集中の弊害に注目） 地元の魅力を再発見
----	---

その他	脱炭素・カーボンニュートラル 新たな補助金増加 SDG s の取り組み増加 地域を見つめなおす時間の増加 日本遺産・ガーデンツーリズム登録
-----	---

補足

テレワークの増加や、会議・商談など非対面的な働き方が主流になってきている。一方、販路拡大や開拓などは非対面では難しいことも多く、難航している現状がある。この一年間でオンラインでできること・できないことが明確になってきた
---

コロナウイルスは経済活動全般に影響を与えているが、その影響が小さな業種と大きな業種の二極化傾向がある。一部の業種では売上が上がったたり、事業拡大したりと好調であるが、飲食店をはじめ、観光業などの影響は大きい。そうした業種は依然厳しい状況が続いている。また、市内の企業の多くはまだ人手不足に苦しんでいる。
---

・感染拡大当初は『新しい生活様式』に違和感があったが、当たり前になってきた。 ・テレワークやインターネットの活用によって、これまで当たり前に行ってきた業務が本当に必要だったのか、適切な方法だったのかを見直すきっかけになった。 ・コロナウイルスの予防で手洗いうがいやマスクの恒常化によりインフルエンザの発生も抑制されている。 ・感染予防に際して、都市部集中から地方に目が向くようになったと感じる。 ・旅行などでできない状況が続き、益田市で何かできないかと思う中で益田の文化や自然などに触れることで魅力を再発見することができた。
--